

授業概要

昭和前期の短篇小説を例に、日本の近代小説の読み方を学びます。

小説を読むということは、これまでの学校教育で学んできた方法とはかなり異なる、別のスキルが必要になります。それらを具体的な小説を例に、演習形式で学んでいきます。

毎回、テキストに収録された小説を読んできてそれを授業内で報告、発表する形をとり、受講者全員でともに考え、小説を読むとはいかなることかを学び、読みの可能性を拡げていくよう指導します。

人と対話することが非常に大事な授業になります。

授業計画

受講者の人数によって変更もあり得る。

第1回	ガイダンス
第2回	発表方法について
第3回	平林たい子「施療室にて」についての報告発表
第4回	井伏鱒二「鯉」についての報告発表
第5回	佐多稲子「キャラメル工場から」についての報告発表
第6回	堀辰雄「死の素描」についての報告発表
第7回	梶井基次郎「闇の絵巻」についての報告発表
第8回	牧野信一「ゼーロン」についての報告発表
第9回	小林多喜二「母たち」についての報告発表
第10回	伊藤整「生物祭」についての報告発表
第11回	室生犀星「あにいもうと」についての報告発表
第12回	北条民雄「いのちの初夜」についての報告発表
第13回	宮本百合子「築地河岸」についての報告発表
第14回	高見順「虚実」についての報告発表
第15回	まとめ
第16回	課題提出

到達目標

- ① 小説を読み解くとはどのようなものかを知り、読むことの可能性を拡げる。
- ② 他者と意見を交換させる中で、自分の考えを適切に伝え、建設的な意見交換ができるようになる。

履修上の注意

授業内で受講者が最低1回は発表を行い、毎回意見交換する演習の形を取るため、主体的な参加姿勢が必要になる。履修にあたってはくれぐれも注意すること。発表者以外は、毎回発表される小説の内容について事前に読んできて授業の最初にコメントを記すことになる。

①欠席しないこと。特別の理由がない限りすべて出席するのが前提である。

②授業で指示された小説を必ず読んでくること。

③ 受講者の発表を主体的に聞き、求められたら必ず発言すること。

日本文学講読（近現代）Ⅰと連続した内容だが、日本文学講読（近現代）Ⅰを受講していなくても受講可。

予習・復習**【予習】**

- ・毎回の授業で指示された小説を読んで、考えたことを報告できるようにすること。
- ・自らの発表担当の時には定められた調査考察を行い、発表資料を作成しておくこと。

【復習】

- ・授業での議論を踏まえ、小説を読み直すこと。

評価方法

授業課題（コメント・発言・受講態度）を40%、授業内発表を30%、期末レポートを30%として評価する。

テキスト

『日本近代短篇小説選 昭和篇1』（岩波文庫）ISBN 978-4003119143